

2022年度 事業報告

特定非営利活動法人

町田市学童保育クラブの会

I. 法人事業

1. 組織運営

1) 理事会

	日程	内 容
第75回	5月29日	2022年度 事業経過報告、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の変更、2022年度 年間保育計画、2021年度 事業報告・決算、定款一部改正、就業規則等一部改正、再雇用職員就業規則一部改正、非常勤職員就業規則一部改正、慶弔見舞金内規一部改正、メンタルヘルスを中心とした復職時の対応指針、定期総会の招集、副理事長の選出および代行順位
第76回	12月18日	2022年度 事業経過報告、2022年度 理事業務執行報告、役割等級制度要綱一部改正、慶弔見舞金一部改正、第一次補正予算、就業規則一部改正、非正規常勤職員および代替職員就業規則一部改正、非常勤職員就業規則一部改正、育児・介護休業等に関する規則一部改正、退職金規定一部改正、ジョブリターン制度規定、学年別年間保育計画
第77回	3月19日	2022年度 事業経過報告、安全計画策定、クラブ外保育マニュアル一部改正、2022年度 第二次補正予算、2023年度 事業計画、2023年度 当初予算、小口現金取り扱い金額について、役職定年延長について

2) 評議員会

評議員は定期総会で選出し、理事会の諮問機関の役割を担うものとして、年3回開催した。第32回 評議員会は出席者が少なかったため書面で議決をとった。

	日程	内 容
第30回	5月29日	2022年度 事業経過報告、メンタルヘルスを中心とした復職時の対応指針、2022年度 年間保育計画 2021年度 事業報告・決算、定款一部改正
第31回	12月18日	2022年度 事業経過報告、学年別年間保育計画
第32回	3月19日	2022年度 事業経過報告、安全計画策定について、クラブ外保育マニュアル一部改正、2023年度 事業計画、2023年度 当初予算

3) 事務局

(1) 事務局は理事会の日常業務の執行機関であり、組織運営に関する業務を行う。

- ①4月～6月：事業報告書および決算書を作成し、関係諸機関へ提出。
- ②6月：定期総会を開催、町田市の管理運営状況評価（モニタリング）を作成。
- ③理事会および評議員会の議案を作成し、運営。
- ④特別保育の利用料徴収業務を行う。
- ⑤関係諸機関・団体との連携を図る。
- ⑥クラブの職員体制の調整を行う。

(2) 事務局会議を開催し、法人組織の機関会議として様々な課題の検討を行った。

	内 容
4月	クラブ報告、4月運営委員会議題整理、定款改正、メンタルヘルスを中心とした復職時の対応指針、再雇用職員就業規則、5月評議員会・理事会議案確認
6月	クラブ報告、定期総会、7月運営委員会議題整理、保護者会との学習会企画案、ソフトボール大会、次年度以降の選定について
8月	クラブ報告、ソフトボール大会、新にじいろキッズ企画案、8月保護者会懇談会議題整理、9月運営委員会議題整理
9月	職員報告、新たな学校づくり報告、新にじいろキッズ企画案、2023年度 職員採用計画 労働災害について
10月	職員報告、にじいろキッズ、出席確認アプリについて
11月	職員報告、慶弔見舞金内規、利用者アンケート、ジョブリターン規定、出席確認アプリ、12月評議員会・理事会、にじいろキッズについて
12月	職員報告、利用者アンケート、新にじいろキッズ、メンタルヘルスセルフチェック、いのちの広場進捗状況、中期計画進捗状況、2022年度事業報告、2023年度事業計画、育児・介護に関する規則、12月理事会議案について
1月	職員報告、定数協議、利用者アンケート結果、出席確認アプリ、にじいろキッズ、2022年度事業報告、2023年度事業計画について
2月	職員報告、財務・労働モニタリング報告、利用者アンケート、2022年度 事業報告、2023年度事業計画 2月運営委員会議題整理
3月	職員報告、施設長会議報告、2023年度事業計画、理事会・評議員会議案確認

4) 各種委員会

(1) 運営委員会

運営委員会は、①組織・事業全般に関し、理事と施設責任者で業務執行状況の確認および調整、②組織内の重要事項の確認、伝達等、③学年別保育計画等の検討を行った。

	内 容
4月	クラブ報告、定款改正、メンタルヘルスを中心とした復職時の対応指針、年間保育計画
7月	職員報告、各担当・PJ報告
10月	職員報告、各担当・PJ報告、施設長会議報告、学年別年間保育計画、広報紙くれよん、利用者アンケート、ジョブリターン制度規定、新たな学校づくりに伴う指定管理について
2月	2023年度 児童数、各担当・PJ総括・企画案、利用者アンケート回答、役職定年延長について

(2) 調査研究委員会

2022年度、活動はなかった。

(3) 人事委員会

人事委員会は、正規職員の採用および配置、昇級試験を中心とした活動を行った。また、組織として職員の人事に関する情報を把握することに努めた。

	内 容
4月	2022年度 正規職員選考（欠員）
6月	2022年度 正規・非正規職員選考（欠員）
7月	2022年度 正規・非正規職員選考（欠員）
8月	2022年度 正規職員選考（欠員）
10月	2022年度 正規職員選考（事務員）、2023年度採用計画、 2022年度 昇級試験について
11月	2023年度 正規職員選考（支援員・事務員）、2022年度 昇 級試験
1月	2023年度 正規職員選考
2月	2023年度 職員配置
3月	2023年度 常勤職員選考

(4) 苦情解決委員会

苦情解決制度に基づき、苦情解決委員会を5月と11月に開催し、第三者委員に報告した。

5) 職員の諸会議

(1) 正規職員全体会

職員教育および情報共有を目的に年3回実施し、施設責任者が運営を担当した。

(2) プロジェクト等、課題別の会議

①ぶちくれよんひろば

年10回プロジェクトを開催し、地域の乳幼児とその保護者の「孤立した子育て」をなくすため、親子で安心して過ごせる居場所づくりとなるよう計画を行った。開催情報をSNSで発信することを検討したが、必要な家庭に直接情報を届けるために町田子育て相談センターと連携し、マイ保育園登録訪問の際にぶちくれよんのチラシを配布していただくこととした。

②新にじいろキッズ

年10回プロジェクトを開催し、8月3日間で行う「ペットボトルロケットの打ち上げ実験」プログラム実施に向け、案内を作成し申し込みの方法を整えた。夏休みの人員不足、コロナ禍の状況を踏まえ延期した後、12月の1日開催で行うこととしプログラムを修正した。

③にじいろキッズ

3年生まで在籍していた4～6年生（在籍児含む）を対象に、春休みの子どもの居場所づくりの計画を行った。2023年度の春休みについては、入会できなかったクラブの児童を対象に、にじいろキッズを利用する希望があるかアンケートを行い、春休みの企画の準備を進めた。

④広報紙『くれよん』

年10回プロジェクトを実施し、161～166号の記事作成・発行と他機関の広報紙の内容の調査、発行回数や紙面量について意見交換をし、現状の課題を確認した。発行回数や紙面量については次年度も引き続き考察を続け、より良い情報発信ができるよう発行していく。

2. 人材確保

1) 人材確保

(1) 大学訪問

直接の訪問はできなかったが、玉川大学の教員へ求人情報を案内した。

(2) クラブ見学の受け入れ

ホームページの求人コーナーでクラブ見学が可能なことを掲載し、求人者より依頼があった際にはクラブ見学の受け入れを行った。

(3) インターンシップの受け入れ

制度を導入する準備を進めたが、検討までいかなかった。また、玉川大学からの受け入れは今年度なかった。

玉川大学主催のまちともと学童保育クラブにおけるインターンシップについての座談会に出席し、大学関係者・学生・まちともスタッフと情報交換を行った。

(4) 就職説明会

社会福祉協議会主催の「福祉の仕事」(就職説明会)は、日程が合わず参加することができなかった。今年度、川崎市ハローワーク主催の新卒者対象合同説明会が実施されたため、今後は参加できるよう採用計画に盛り込んでいく。

(5) 法人ホームページの活用

「クラブ見学」について、求人案内のページに応募前の相談や施設見学が可能であることを掲載した結果、見学の問い合わせが複数あり、採用につながった。「インターンシップ受け入れ」については、制度作成に至らなかったため掲載できなかった。

(6) えるぼし認定取得

取得に向け、申請書やパンフレット等の資料を収集した。申請に必要な一般事業主行動計画の策定・届出は行ったが、次に女性の活躍に関する状況について「女性の活躍推進企業データベース」や自社のホームページ等に公表をすることが必要であることがわかったが、公表には至らなかった。より詳細な情報を研修等で学び、公表を次年度の目標としたい。

(7) ジョブリターン制度の導入

採用活動を行うと共に再入職する職員のキャリアを活かすことを目的に制度を導入し、該当する者に案内を郵送した。

3. 人的安定性

1) 人的安定性

(1) 職員のフォローアップ

振り返りシートを活用し、定期的に施設責任者が職員面談を行った。コロナ禍、職員体制が確保できない等の理由から事務局の巡回指導は実施できなかった。しかし、必要に応じて職員面談は実施した。

(2) メンタルヘルス外部相談窓口として、東京メンタルヘルス株式会社が行っている「メンタルヘルスサポートネット」を利用し、年2回のセルフチェック実施と職員のメンタルヘルスケアを導入した。また、新規採用職員に対しセルフケア講習、および管理者むけのラインケア講習、また全職員対象のセルフケア研修を受講した。

(3) 給与水準の検討

職員の雇用の安定と、一定の生活水準確保のため、社会の状況や水準を踏まえ常勤職員の基本給のベースアップと該当者には特別賞与を支給した。

2) 人財育成

人材育成方針に沿った研修計画を基に常勤研修、職場内教育を実施した。内定者研修を2日に分け実施し、緊急時対応、子どもとの関わり、出欠席確認方法など入職後に戸惑わないよう説明した。

非常勤職員研修は会場の確保が困難だったため、単独での実施は見合わせ、全職員対象の研修を1回実施した。今後はオンラインの活用も検討していく。

新規採用者を中心に「放課後児童支援員」、5年以上の常勤職員は「東京都放課後児童支援員資質向上研修」を受講した。

東京都社会福祉協議会の講師派遣制度は、今年度は活用できなかったが、人権教育啓発推進センターより講師派遣を依頼しハラスメントについて、また、全職員を対象に横浜国立大学の助教授を講師に招き、障がい児保育について、研修を実施した。施設責任者と事務局職員は法改正に伴い育児休業について研修を受講した。

人事考課に基づくフィードバック面接を年に2回実施し、目標の到達点と課題などの確認を行った。

3) 研修

全国学童保育連絡協議会主催

日 時	研修名	場 所	参加人数
6月5日	全国指導員学校	オンライン	42人
10月30日	全国学童保育研究集会	オンライン	28人

町田市児童青少年課主催

放課後児童支援員資質向上研修

日 時	テーマ	場 所	参加人数
6月3日	コミュニケーションを育てる遊び・ゲーム	市民フォーラム	54人
6月17日	児童虐待につながる危険な支援について	健康福祉会館	53人
7月8日	高学年の心理学	健康福祉会館	54人
9月16日	愛着障害	健康福祉会館	55人
10月7日	保護者対応	市民フォーラム	44人
11月7日	子どもと職員の安全管理	市民フォーラム	50人
1月23日	特に配慮を必要とする子どもの理解と育成支援の工夫	市民フォーラム	34人
2月10日	職員間の意識共有と相補理解を深める関係作りと連携方法について	オンライン	51人

東京都主催 東京都資質向上研修

日 時	テーマ	場 所	参加人数
1月13日	子どもの人権と放課後児童支援員としての職場倫理 障害のある子どもへの対応 発達障害児への対応を中心に 保護者・学校との連携・協力	武蔵野スイングホール	1人
1月30日		町田市文化交流センター	1人
2月24日		町田市文化交流センター	2人

南地区あんしんプロジェクト主催

日 時	テーマ	場 所	参加人数
2月13日	ヤングケアラーの現状と課題	南市民センター	2人

子育て推進課主催

日 時	テーマ	場 所	参加人数
11月2日	不登園・不登校の子ども理解とその支援について	オンライン	2人
11月8日	相談援助の基本	オンライン	3人

職場内研修

(1) 初任者研修

日 時	テーマ	場 所	参加人数
4月26日	個人情報	オンライン	10人
5月19日	記録の取り方	オンライン	9人
9月9日	メンタルヘルス対策に向けてのセルフケア	高ヶ坂けやき	常勤14人 非常勤2人
9月20日	保護者との関わり	オンライン	11人
11月22日	苦情解決①	オンライン	10人
11月28日	支援員とは 保育理念など	オンライン	7人
2月28日	支援員とは 保育理念など	オンライン	2人

(2) 中堅者研修

日 時	テーマ	場 所	参加人数
5月19日	苦情解決②	オンライン	6人
7月12日	OJT担当者①	オンライン	5人
	福祉サービスの組織性	オンライン	5人
	子育て支援	オンライン	4人
9月20日	OJT担当者②	大蔵	5人
	保護者会支援①	どろん子	4人
11月22日	人事考課	オンライン	4人
	保護者会支援②	どろん子	10人
	集団作り	オンライン	4人
	福祉サービスの組織性①	オンライン	4人
12月12日	ハラスメント	そよかぜ	11人
2月21日	人事考課	大蔵	9人

(3) 管理者研修

日 時	テーマ	場 所	参加人数
6月23日	人事考課	オンライン	7人
12月12日	ハラスメント	そよかぜ	11人
12月20日	人事考課	オンライン	8人
WEB配信	育業（育児休業）360度徹底解説	オンライン	7人

(4) 常勤職員研修

日 時	テーマ	場 所	参加人数
12月10日	いのちの広場	函師小学校体育館	13人

(5) 全職員研修

日 時	テーマ	場 所	参加人数
2月22日	いのちの広場	オンライン	常勤56人 非常勤62人
2月22日	発達障がい子どもたちの理解と支援	オンライン	常勤57人 非常勤62人

町田市社会福祉協議会主催

日 時	テーマ	場 所	参加人数
6月27日	福祉施設職員に向けた ビジネスマナー	オンライン	4人

東京都主催

日 時	テーマ	場 所	参加人数
WEB配信	医療的ケア児の理解	オンライン	28人
WEB配信	メンタルヘルスケア ラインケア研修	オンライン	7人
WEB配信	メンタルヘルスケア セルフケア研修	オンライン	32人
WEB配信	アレルギー研修	オンライン	3人
WEB配信	放課後活動における心の健康ケア	オンライン	3人

東京都社会福祉協議会主催

日 時	テーマ	場 所	参加人数
6月16・17日	キャリアパス 管理職員研修	オンライン	1人

事務局研修

日 時	テーマ	場 所	参加人数
WEB配信	ファンドレイジング	オンライン	1人
WEB配信	採用担当者研修	オンライン	1人
1月24日	Microsoft365研修	オンライン	1人
WEB配信	電子申請研修	オンライン	1人
WEB配信	育児（育児休業）360度徹底解説	オンライン	2人

資格取得講習

種別	参加者
放課後児童支援員認定者資格	常勤6名 非常勤1名
普通救命救急	常勤30名 非常勤62名
上級救命救急	常勤3名
防火管理者講習	常勤1名
衛生推進者講習	常勤3名

職場内教育

月	内 容	月	内 容
4	リスクマネジメント・食品の取り扱い	9	安全管理・危機管理
5	個人情報の取り扱い	10	苦情解決
6	保育理念文書	2	アレルギー対応
7	保健・衛生管理		

4. 啓発活動

1) ニュース発行

(1) 広報紙「くれよん」

法人の広報紙「くれよん」を年間計画に基づいて、年7回、1,250部発行を行った。法人主催で行った「いのちの広場」学習会についての報告や、地域団体との交流記事としてFC町田ゼルビアとの交流の様子やボランティア受け入れについて、保護者からの記事として、お弁当レシピや子ども時代のエピソードなどを掲載した。

(2) 「ぷちくれよんだより」 季刊発行

ぷちくれよんひろば利用者と学童クラブ在籍家庭に子育てに関する情報提供を目的に「ぷちくれよんだより」を学期ごとに年3回発行した。企画時に親子で工作を楽しむ様子や出来上がった作品を載せるとともに、季節に合わせて「暑さ対策」、「防災準備」、「子どもが育つ魔法の言葉」など子育てに役立つ情報を掲載した。クラブだよりにあわせて、全保護者へ配布をした。

2) ホームページの充実

- (1) お知らせページを活用し、ぷちくれよんひろばの中止や、求人情報の掲載案内はリアルタイムに発信できた。
- (2) 法人主催で初めて行った学習会「いのちの広場」の開催予告を掲載した。
- (3) 各クラブの基本情報は提供できたが、お知らせページの「学童クラブ」「イベント情報」の活用はできていない。
- (4) ぷちくれよんひろばのページに、実施予定、ぷちくれだよりの掲載を行った。ぷちくれよんひろば、にじいろキッズ共に開催の様子の掲載はできていない。
- (5) ボランティア受入の窓口として、ホームページに各クラブの募集状況を掲載することを計画していたが、クラブからの情報収集ができなかったため、掲載に至らなかった。

3) その他

- (1) 10月以降に実施される就学時健診にむけて案内チラシを配布した。
- (2) 学童保育月刊誌「日本の学童ほいく」の普及
日本唯一の学童保育に関する専門雑誌であり、2022年度は50部の購読申し込みがあった。前年度と横ばいであり職員のみ購読に留まっている。全国学童保育連絡協議会より原稿依頼があり、職員が執筆した。
ブロック会議やクラブの職員会議で月刊誌を活用し職員教育の充実を図った。今後も懇談会等を活用し月刊誌の普及活動を行っていく。

5. 子育て支援事業

1) 緊急一時保護

町田市より緊急一時保護児童の受け入れの依頼はなかった。

2) 通所支援事業

「町田市学童保育クラブ通所支援に関するガイドライン」に基づき、町田の丘学園に在籍する児童の通学バス停までのお迎え事業を行った。

3) ぷちくれよんひろば事業

開催場所を利用者が不在の図書館から忠生市民センター内の図書館や乳幼児健診のために来所する乳幼児家庭の参加が見込まれるなかよしくラブに変更し、5か所で開催した。利用は当日予約も含む電話予約制とし、5組を

上限に受け入れを行った。昨年度見送った屋外開催を11月の企画「秋を探しに」として行った。そよかぜクラブで開催し、参加者は2組だった。来年度は現地集合現地開催として行うことを検討する。

そよかぜクラブでは、通年、地域の民生委員の方がボランティアスタッフとして利用者と関わった。

利用者アンケートを実施したが、期間が冬場の感染症流行時だったためアンケートの案内を郵送で行ったが、回答数が少なかった。「企画の手形足形アートがよかった」や「ひろばを利用することで、遊び場が増えた」等の意見があった。

	登録世帯数		年間延べ利用数		平均利用人数	
	2021年度	2022年度	幼児	保護者	企画日	開放日
金井		3	3	3	0.1	0.1
そよかぜ	4	8	34	34	1.2	1.2
どろん子		2	2	2	0.1	0.1
なかよし		1	3	3	0.1	0.1
南大谷	3	4	10	7	0.7	0.5

4) にじいろキッズ事業

コロナ禍における人材確保ができなかったため中止とした。

5) 新にじいろキッズ事業（仮称）

3年生まで在籍していた4～6年生（在籍児含む）を対象に、子どもの居場所事業として「ペットボトルロケットの打ち上げ実験」のプログラムを実施した。当初の夏休み3日間実施予定は、コロナ禍の状況をみながら調整し、12月の1日間に変更した。7クラブ9名の参加があり異年齢の交流の場とすることができた。駅と現地で集合解散する送迎の状況を把握することやボランティアスタッフ2名の協力を得ることができた。町田市の高学年居場所づくりとして、2023年度に成果を活かし充実させていく。

	4年	5年	6年	計
大戸のびっ子		1		1
金井		1	1	2
高ヶ坂けやき	1			1
つくし野		1		1

	4年	5年	6年	計
なかよし	1		1	2
成瀬中央あおぞら	1			1
わんぱく		1		1

	4年	5年	6年	計
計	3	4	2	9

6. 保護者会活動への支援

1) 保護者会との懇談会の充実

各クラブ保護者会相互の交流を図るとともに、法人との情報交換および連携を図るため懇談会をオンラインで開催した。懇談会前に各保護者会が疑問に思っていること、他保護者会に聞きたいことなどのテーマを募った。交流時間を深めるために地区別や児童数別等のグループに分かれて懇談を予定していたが、オンラインで交流するには時間が足りず実施できなかった。次年度は感染対策を講じながら対面で実施する。

月	内容
6月	保護者会活動の取組、新たな学校づくりについて
8月	保護者会活動の取組、新たな学校づくりについて
11月	行事、役員の引継ぎ、連絡ツールについて
2月	広報紙「くれよん」、新たな学校づくりについて

2) 保護者と共に学び考える場を

12月10日に図師小学校体育館にて、子どもたちがいのちの大切さを知り自分を大切に、他の人へも思いやりの心を持つ機会とすること、いのちの大切さを子どもと大人で共有することを目的とし開催した。当日は63名の参加があり、保護者からは「第2弾をやってほしい。」「子どもが真剣に聞いていた。」「子どもからは「赤ちゃんはお腹の中でも頑張っている。」「赤ちゃんの最初は小さいことに驚いた。」支援員からは「クラブでも子どもたちにいのちが受け継がれ、一人ひとりの人間が存在していることを改めて実感し、子どもたちへ一人ひとりが尊い存在であることを伝えていきたい。」などの感想があった。

3) その他

職員有志で保護者と支援員の交流ソフトボール大会の開催にむけ準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。

7. 関係団体・機関との連携

1) 行政との連携

- (1) 事務局が窓口となり、児童青少年課と日常的な情報交換を行う。また、児童青少年課主催の施設長会議に出席した。
- (2) 東京都子供・子育て会議委員を依頼され、職員を派遣した。

2) 学童保育に関する団体との連携

- (1) 町田市学童保育クラブ父母会連絡協議会（父母連協）と町田市学童保育を考える会（考える会）と学童保育に関する課題が生じた際、連携を図っているが2022年度は父母連協からの依頼のチラシの配布のみにとどまった。
- (2) 町田市学童保育運営者協議会に参加し、市内で学童保育クラブを運営する法人と6月に保育内容や出席確認アプリなどについて、情報交換を行った。
- (3) 町田市社会福祉協議会の主催する児童の絵画展の選考委員を依頼され、事務局が協力を行った。必要に応じて学童保育事業担当者と情報交換を行った。

3) 子どもに関する事業を行う団体・法人との連携

市民協働フェスティバル「まちカフェ！」実行委員会への参加は、日程が合わず参加できなかった。町田市地域活動サポートの機関紙から情報を得たが、クラブの活動に活かせる団体の紹介はなかった。

8. 苦情解決

法人苦情解決制度に基づき設置された、苦情解決委員会を年に2回開催した。保護者および地域から寄せられたご意見と対応について委員に報告を行った。

苦情の件数は下記の通りであった。昨年度より支援員の対応に関する苦情の件数が若干減った。内容としては、降所に関するものが多く、送り出しの遅れやお迎え時の対応の遅さなどに関するものであった。降所時間通りに送り出すこと、お迎え時は速やかに引き渡すことを徹底していく。路上駐車に関する苦情は減らなかったため、各クラブでの周知に努めていく。報告内容については、各クラブの支援員会議で情報共有を行い、同じようなことが起きないように再発防止に努める。また、町田市に報告書を提出した。

苦情内容	2021年度	2022年度
職員の対応に関する不満	31	25
近隣からの苦情	1	1
その他	4	4
合計	36	30

9. 学童保育の充実にむけた取組

1) 施設の狭あい化

児童数の増加により狭あい化している施設の課題を解消するために、定数協議の際に町田市と協議した。

2) 学校統合に伴う学童保育クラブ数の減少

町田市では、「まちだの新たな学校づくり」として、2040年度までに市立小学校を42校から26校に統合することを進めている。学童保育クラブについては、現在と同様に1小学校区1クラブで計画しているため、現在運営中の12クラブは他法人運営の学童保育クラブと統合することとなるため、引き続き運営を行っていただけるか、運営委員会等で検討を行う。

10. その他

1) 労働安全衛生の推進

施設責任者で受講していない者は「安全衛生推進者」の資格取得のための講習を受講した。

2) 震災で被災した学童保育への支援金の取組み

法人として、全国学童保育連絡協議会が実施している「東日本大震災学童保育募金」および「自然災害学童保育支援募金」に引き続き協力を行う。広報紙くれよん165号にて支援の呼びかけを行い、集まった支援金を送金した。クラブ単位での取組みが全クラブで実施できなかったため、次年度は共催行事等の際に、支援の呼びかけを行う。

3) 事業拡大と法人基盤の強化

- (1) 地域の子育て支援を開始するための新事業の調査研究、具体化、提案は未着手であった。
- (2) 新年度前には、会員となったことがある方に引き続き会員となっただくよう、会費の払込書とともに依頼文を送り、継続会員につなげた。
- (3) 法改正に伴い、必要な就業規則の改正を行った。また、社会情勢や現状に合わせ、都度、内規等の新設や諸規定の改正を行った。

(2021年4月1日～2022年3月31日)

区分		2021年度	2022年度
正会員	団体会員	12	12
	個人会員	64	59
賛助会員	個人会員	30	25
計		106	96

Ⅲ. 学童保育事業

1. 事業展開

「倫理綱領」「倫理綱領に基づく行動指針」「保育実践のガイドライン」「学童保育所保育指針」等、保育理念に関する法人諸規定に基づき、保育事業を行った。(各クラブ事業報告書：別紙参照)

9月30日に発表された、2021年度の「公の施設の指定管理者管理運営状況評価結果(モニタリング)」において、情報公開・個人情報保護の項目についてメールの誤送信、書類の一時紛失について否と判断され速やかに改善を行った。また、おやつのお味期限切れの提供について嚴重注意を受けた。

また、1月に町田市の会計・経理・労働条件モニタリングが行われた。事務局が説明し、帳票類を提出したところ、問題点等の指摘事項は特になかった。

2. 組織運営

1) 職員会

(1) 施設責任者会議

毎月開催し、職員研修、施設・組織運営に関する諸課題について検討を行った。また、必要に応じて臨時責任者会議を開催した。

月	内容
4月	1学期正規全体会、4月運営委員会、6月保護者会懇談会にむけて、年間保育計画について
5月	6月保護者会懇談会にむけて、町田市事業報告書作成について
6月	夏休みしおり、ソフトボール大会、7月運営委員会議題整理
7月	定期点検・総会報告、ソフトボール大会、8月保護者会懇談会議題整理、2学期正規全体会、新にじいろキッズについて
9月	10月運営委員会議題整理、昇級試験について
10月	11月運営委員会にむけて、2学期正規全体会、全職員研修、中期計画振り返りについて
11月	子どもアンケート内容確認、11月保護者会懇談会議題整理、2学期正規全体会にむけて
12月	定期点検報告、中期計画振り返り、法人事業計画について
1月	各PJ/担当 総括と企画書の確認、2月運営委員会議題整理、法人事業報告、役職定年延長について
2月	3学期正規全体会にむけて、全職員研修、次年度PJ/担当について
3月	2月保護者会との懇談会振り返り、安全計画、次年度責任者会議での検討事項確認

(2) ブロック会議

毎月ブロック会議を開催し、施設運営(事故対応、苦情解決、施設の管理等)に関する情報共有および業務改善への指導を行った。情報を共有することで、正規職員の職員教育および業務標準化を図った。

(3) 保護者と支援員の学習会

保護者と支援員が共に学び考える場となる学習会の立案をした。12月の学習会の開催に向け、コーディネーター(保護者)・講師と打合わせは2回行った。また、ポスター・チラシは保護者に作成をしていただいた。

(4) 専門性PJ

年9回オンラインで会議を開催し、学年別年間保育計画の作成を行った。年間保育計画の「生活」「あそび」の項目より学年ごとの個別の配慮事項を整理するとともに、継続性を担保しながら、学童保育クラブ保育指針との整合性を持たせ、1年、2年、3年、4年、5・6年生の作成をした。

2. 関係団体・機関との連携

1) 行政との連携

- (1) 地域子育て支援ネットワーク連絡会に参加し、児童虐待防止および地域の子育て支援に関する連携を図った。
- (2) すみれ教室等、地域の子育て支援に関する諸機関との連携を図った。
- (3) 町田市教育センターが主催する「特別支援学校連絡協議会」が中止となったため、後日、学校と情報共有を行った。
- (4) 「放課後子ども教室(まちとも)」を運営する運営協議会との協力・連携を図った。あそび方のルール、ケガやトラブルなどの情報を共有した。また、緊急時対応マニュアルの作成にあたり、大蔵クラブが先行して、協議会とマニュアルの内容確認を行った。次年度、文章化し全クラブ共通のマニュアルを作成する。

3. 保育の質の向上

1) 児童の安全対策

事故とけがに関するヒヤリハットの振り返りと分析を各クラブで学期ごとに行った。支援員の事故防止対策に対する知識の習得と児童への安全指導が適切に行えるように、ブロック会議等で分析結果の共有と事故防止対策の報告を行い、必要に応じマネージャーが指導、助言した。

2) 保育実践の報告会

ブロック会議にて高学年保育についてやSDGsについてディスカッションを行った。お互いの実践を振り返り、クラブで取り入れられるものは実践に活かした。

3) 保育に関する自己点検

研修等の際に振り返りシートを積極的に活用することができなかったため、次年度は、研修の際に保育の振り返りシートのどの項目にあたるのかを確認していき、職員の保育の質の向上を図る。

4. 事故防止対策

1) 児童への健康指導・安全指導

(1) 手洗い・うがい

正しく手洗いができているか年に2回以上、手洗いチェッカーを使用し指導した。また、感染症対策としてマスクの着用、食事のマナーの指導をした。

(2) 交通安全指導

学区域の通学路マップ等を使い、年に3回(4, 7, 2月)指導を行った。

(3) KYT(危険予知トレーニング)

年度当初に施設内外の危険箇所、遊具の使い方や遊び方に関する指導を行った。

2) 食物アレルギー・熱性けいれん・てんかんの対応

(1) 食物アレルギー

町田市のアレルギー対応マニュアルを、職員全体で確認した。食物アレルギー対応マニュアルおよびチェックリストをもとに、日常の食品管理は専用のケースで行い、おやつ提供時の事故防止対策を徹底した。

食品アレルギーをもつ児童の家庭と毎年ごとに面談を行い、個別対応プランを立てプランに基づきおやつ等の提供を行うことを徹底した。

(2) 熱性けいれん・てんかん

熱性けいれん・てんかんをもつ児童の家庭と毎年ごとに面談を行い、発作が起きた際にはチェックシートと座薬の挿入に関する意見書、同意書兼依頼書をもとに対応することを徹底した。

対象となる児童の在籍の有無に関わらず、年度当初にアレルギー、熱性けいれん・てんかんの対応について支援員教育を行った。

3) 防災・不審者対応

(1) 火災事故防止

全クラブに防火・防災管理者を配置し、消防計画をもとに適切な訓練等を行った。また、火災防止のため、チェックリストを基に毎日、点検を行った。法定の消防設備保守点検が義務付けられている施設は、年2回点検を受けた。

(2) 児童・職員の訓練

町田市の防災マニュアルに基づき、自然災害時や不審者対応等の訓練を毎月行った。また、職員教育として警察署、消防署職員による訓練をそれぞれ年1回、実施した。町田市の土砂災害・洪水ハザードマップで危険個所となっているクラブ（大蔵・のびっ子・金井・そよかぜ・南大谷・わんぱく）は、訓練を実施した。

「放課後子ども教室（まちとも）」を運営する運営協議会と合同の避難訓練（地震・不審者など）を企画提案し実施した。

4) 衛生管理

(1) 衛生管理

衛生管理チェックシートに基づき、施設・設備の維持管理を日・月・年単位で行った。

(2) 食品の管理

食品の賞味期限の管理は、マニュアルに基づき、複数の支援員で確認をして提供をした。食品の在庫管理は、複数の支援員で定期的に行うことを徹底した。4月に食品の管理について、マニュアルの確認を全支援員で行った。

5) 事故件数（医療機関にかかった場合）

2021年度と比べ児童のケガの件数は増加した。保育中のケガについては、ほぼ横ばいであったが、登降所中のケガが増加した。保育中のケガの多くは頭部の打撲であったため、大事をとり受診した。児童への登降所の安全指導も含めて引き続き事故防止に努める。職員のケガの件数は昨年とほぼ変わらなかったが、通勤中のケガが多かった。

	児 童				職 員		児童のケガ	
	傷 害		施 設 賠 償				保育中	登下校中
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度		
大蔵	6	9	0	0	0	0	8	1
大戸のびっ子	4	6	0	0	0	0	6	0
金井	5	9	0	0	1	0	7	2
高ヶ坂けやき	5	1	0	0	0	0	1	0
図師	7	6	0	0	1	0	5	1
そよかぜ	6	4	0	0	0	0	3	1
つくし野	1	2	0	0	0	0	2	0
鶴川	11	8	0	1	1	1	8	0
どろん子	4	14	0	0	2	0	12	2
なかよし	11	7	2	1	0	1	5	2
成瀬中央あおぞら	7	3	2	0	2	0	2	1
南大谷	5	9	0	3	0	3	9	0
わんぱく	5	7	0	1	0	1	6	1
計	77	85	4	6	7	6	74	11

6) その他

(1) 児童青少年課からの保護者宛て文書の未送信

育成料のお知らせについて、保護者へメール配信またはお便りを配布の依頼のメールが事務局へ届いたが見落としてしまっていたため送信が遅れた。再発防止策として、担当課から法人代表メール宛てのメールは、各事務局職員メールアドレスへ転送する設定とし、ファイルはすぐにダウンロードすることを徹底する。また、パソコンのアラーム機能を活用して定期的にメールの確認を行うこととした。

5. 地域との交流

1) 交流・合同行事

各クラブ間の相互交流、および運営主体が異なる他クラブとの交流を積極的にすすめて、「町田の学童保育クラブ」として交流および連携を図った。南地区の学童クラブ（高ヶ坂けやき、そよかぜ、つくし野、どろん子、成瀬中央あおぞら、南大谷、わんぱく）が 2 つに分かれ、オンラインを活用し伝承遊びの大会をする合同行事を行い、交流を図ることができた。次年度は、北地区も開催を目指す。

2) 地域との交流を目的とした行事の実施

- (1) 地域の自治会等と、地域での子どもの安全と健やかな成長を願う団体と、行事を通して交流を図った。
- (2) 学童保育に在籍する子どもと地域の子どもの交流を目的とした、地域開放行事が再開できるよう準備を進める。

6. 保護者支援

1) 個別の家庭支援

(1) 個人面談

子どもの成長を伝える機会として、年1回以上、全家庭を対象に実施した。支援員と保護者の信頼関係づくりに重点をおいて、個別支援を行った。実施にあたっては、保護者が方法（対面・オンライン）を選べるようにしたこと、保護者の参加がしやすくなったと好評であった。

(2) 懇談会

保護者同士が悩みや相談ができるよう、学年別やグループ別などに分けて保護者からテーマを募るなど身近なことについて気軽に相談しあえるよう支援した。参加者が少ないクラブは理由を分析し、参加しやすい環境を検討し懇談する内容を変更する等の工夫をした。

(3) その他

連絡帳やクラブ通信を活用し、日々の子どもの様子を伝える。連絡帳の記載は、保育時間中のため、記載が確実にできないこと等を保護者に説明し理解を求め、クラブ通信等で伝えることを意識した。

2) 保育参加

保育参加を実施したクラブとできなかったクラブがあった。次年度は、社会状況を踏まえ、保護者が保育を体験しながら、日頃の子どもの様子を知る機会として保育参加を実施する。

3) 保護者会支援

子育てを通じて保護者同士が繋がり協力しあえる関係になるよう、保護者が活動に参加する機会を保護者会役員と相談しながら設けた。保護者会活動を通じて「我が子の成長が感じられる」「我が子の友達と触れ合うことができる」を軸に、保護者会活動が円滑に進むよう協力した。また、子どもたちを真ん中に保護者と支援員が手を取り合い、学童保育クラブの充実のための協働をすすめていった。

4) 卒会した児童と家庭へ子育て支援

新型コロナウイルス感染症の影響により、卒会した児童と家庭との繋がりが途切れてしまった。卒会した児童や保護者と学童クラブを繋げていくことを次年度の課題とする。

7. その他

1) 利用者アンケート

当初、9月に実施し12月までに保護者へ報告することとしていたが、町田市共通の質問項目が変更となったため、11月に各クラブ保護者に対し満足度調査を行い2月にアンケート結果および改善策について保護者へ報告した。今年度よりウェブでの回答を導入し、13クラブの回収率平均が、昨年度の89.1%から94.2%に向上した。

アンケートの回答について、全体的に評価が高いのは、「発熱やケガなどの対応」「学童クラブに楽しく通えているか」「支援員の対応」等であった。

クラブにより若干の差があるものの、評価は低かった項目は「保護者同士の交流」「学童クラブとの情報共有」等があった。保護者同士の交流については、「コロナ禍のためできていない」「交流がなく保護者とお子さんの名前が分からない」などの意見があった。保護者会と連携し、保護者同士の交流の在り方を考えていく。学童クラブとの情報共有については、出欠確認・連絡ツールについてのご意見があった。出欠確認アプリ等の導入に向けて検討をしていく。

総合的満足度は、13クラブで85.5～98%と比較的満足が得られている。いただいたご意見をもとに、更なる満足度の向上に努める。

全世帯	回答数	全クラブ平均
977	910	93.10%
	前年度	89.10%

2) 放課後児童クラブ自己チェックリストの活用

学童クラブ事業内容について年に一度、放課後児童クラブ自己チェックリストを用いて、各クラブにて振り返った。その後、全学童クラブで法人としての検討を行い、事業計画に反映する等の事業内容向上に向けた取り組みに努めた。

3) 業務改善

(1) 事務局がクラブを巡回し、ICT 環境、データのクラウド化の整備を進めた。常勤職員 1 人 1 台のパソコンを整備した上で Microsoft365 を導入し、ドキュメント管理、クラウドへデータ共有化することにより、業務効率化につなげた。

(2) ペーパーレス化

書類の保存用ファイルや提出書類を見直し、データによる管理・提出を進めた。年末調整申告、給与明細は電子化を行った。

(3) ビデオ会議、クラウドデータの取り扱い等、ICT に対する知識の職員教育の実施は行えなかったため、次年度の課題とする。

(4) 事務局の課業一覧を現在の 5 階層から 6 階層への再作成は行えなかったため、次年度の課題とする。

5) 定期点検

年に 3 回、事務局による各クラブの定期点検を行なった。点検項目として、個人情報の適正な管理、衛生管理、文書管理方法、整理整頓、火災事故防止に関する指導を行った。また、おやつ代の監査を年間通して行った。

6) ボランティア等の受入れ

地域の大学・個人の方のボランティアの受け入れを行った。中学生の職場体験、玉川大学よりインターシップの受け入れの実施はなかった。また、町田ボランティアセンターの「夏ボラ」に登録したが、ボランティアの希望はなかった。

Ⅲ. 児童数と職員体制

1. 児童数および職員配置 (2022年4月1日～2023年3月31日)

クラブ名	支援の 単位数	職員			児童数			
		正規	常勤 (非正規常勤)	非常勤	4月1日	増	減	3月31日
大蔵	4	4	2	8	132	12	28	116
大戸のびっ子	1	2	1	1	31	7	9	29
金井	3	4	2	10	114	7	27	94
高ヶ坂けやき	2	3	0	6	68	10	23	55
函師	3	2	2	8	105	9	22	92
そよかぜ	3	3	2	11	84	5	16	73
つくし野	2	3	0	6	84	13	19	78
鶴川	3	3	2	5	87	13	22	78
どろん子	4	4	4	16	142	7	20	129
なかよし	3	4	1	9	98	14	30	82
成瀬中央あおぞら	2	3	0	8	72	8	17	63
南大谷	3	4	2	11	124	8	27	105
わんぱく	2	3	0	7	71	5	18	58
事務局		4	0					
計	35	46	18	106	1212	118	278	1052

2. 人事

1) 採用

<採用>

入職日	雇用形態	所属クラブ	備考
4月1日	正規職員	大蔵	
	正規職員	なかよし	
	正規職員	南大谷	
	正規職員	函師	
	正規職員	わんぱく	
	非正規職員	大戸のびっ子	
	非正規職員	鶴川クラブ	
	非正規職員	大蔵	
	非正規職員	金井	
	非正規職員	函師	
	非正規職員	そよかぜ	
	非正規職員	どろん子	
	非正規職員	なかよし	
	非常勤職員	どろん子	
4月13日	非常勤職員	どろん子	
5月6日	非常勤職員	金井	
5月9日	正規職員	高ヶ坂けやき	
7月1日	非常勤	金井	
7月4日	非正規常勤	大蔵	派遣会社より

入職日	雇用形態	所属クラブ	備考
7月8日	非常勤	南大谷	
7月9日	非常勤	どろん子	
7月19日	非正規常勤	函師	派遣会社より
8月1日	非正規常勤	金井	派遣会社より
8月8日	正規	函師	
8月3日	非常勤	金井	
9月1日	非常勤	大蔵	夏季アルバイトより
	非常勤	大蔵	夏季アルバイトより
	非常勤	高ヶ坂けやき	夏季アルバイトより
	非常勤	そよかぜ	夏季アルバイトより
	非常勤	つくし野	夏季アルバイトより
	非常勤	鶴川	夏季アルバイトより
	非常勤	なかよし	夏季アルバイトより
	非常勤	成瀬中央あおぞら	夏季アルバイトより
	非常勤	つくし野	夏季アルバイトより
9月5日	正規	函師	
10月4日	非常勤	南大谷	夏季アルバイトより
10月1日	非常勤	大蔵	夏季アルバイトより
10月25日	非常勤	どろん子	夏季アルバイトより

入職日	雇用形態	所属クラブ	備考
10月27日	非常勤	成瀬中央あおぞら	
11月2日	非常勤	函師	
12月1日	非常勤	大蔵	
	非常勤	大蔵	
12月2日	非常勤	金井	
12月14日	非常勤	南大谷	夏アルバイトより
12月19日	非常勤職員	事務局	

入職日	雇用形態	所属クラブ	備考
12月26日	非常勤職員	そよかぜ	夏アルバイトより
2月28日	非常勤職員	そよかぜ	2023年度正規採用
3月4日	非常勤職員	金井	2023年度正規採用
3月20日	非常勤職員	南大谷	2023年度正規採用
3月27日	非常勤職員	鶴川	

<退職>

退職日	雇用形態	所属クラブ	備考
4月30日	産休代替職員	そよかぜ	契約満了
	非常勤職員	金井	
7月31日	非常勤	函師	
8月24日	正規	函師	
8月31日	正規	わんぱく	
8月31日	非常勤	大戸のびっ子	
	非常勤	事務局	
12月30日	非正規常勤職員	大戸のびっ子	
12月31日	正規職員	どろん子	
1月16日	正規職員	函師	
1月31日	非常勤職員	函師	
	非常勤職員	南大谷	
2月25日	非常勤職員	成瀬中央あおぞら	学生
3月29日	非常勤職員	鶴川	学生
3月31日	正規職員	金井	
	正規職員	そよかぜ	

退職日	雇用形態	所属クラブ	備考
3月31日	正規職員	成瀬中央あおぞら	
	非正規常勤職員	金井	契約満了
	非正規常勤職員	金井	契約満了
	非正規常勤職員	どろん子	契約満了
	非常勤職員	大蔵	
	非常勤職員	大蔵	学生
	非常勤職員	金井	学生
	非常勤職員	金井	学生
	非常勤職員	高ヶ坂けやき	学生
	非常勤職員	函師	学生
	非常勤職員	つくし野	学生
	非常勤職員	なかよし	学生
	非常勤職員	成瀬中央あおぞら	学生
	非常勤職員	南大谷	学生
	非常勤職員	南大谷	学生

<異動（役職者）>

異動日	雇用形態	所属クラブ	備考
4月1日	正規職員	高ヶ坂けやき	どろん子より
	正規職員	どろん子	高ヶ坂けやきより

<異動（配置）>

異動日	雇用形態	所属クラブ	備考
4月1日	正規職員	高ヶ坂けやき・責任者	どろん子より
	正規職員	高ヶ坂けやき	鶴川より
	正規職員	鶴川	なかよしより
	正規職員	なかよし	そよかぜより
	正規職員	成瀬中央あおぞら	わんぱくより
	正規職員	成瀬中央あおぞら	高ヶ坂けやきより
	正規職員	南大谷	成瀬中央あおぞらより
	正規職員	わんぱく	南大谷より
9月30日	非常勤職員	高ヶ坂けやき	産休代替より
1月1日	正規職員	事務局	非常勤職員より
2月1日	正規職員	大蔵	非常勤職員より

<異動（その他）>

異動日	雇用形態	備考
4月1日	正規職員	マネージャー昇級
	正規職員	施設責任者昇級
	非正規職員	非常勤職員より
	非正規職員	非常勤職員より
4月18日	正規職員	産休より復帰、つくし野より
5月1日	正規職員	産休より復帰、函師より
7月1日	正規職員	退職
8月8日	正規職員	結婚のため改姓
	正規職員	退職
10月11日	正規職員	結婚のため改姓
11月22日	正規職員	結婚のため改姓